

丸の内通信

ワット誕生200年記念蒸気文化展覧會

昭和11年は蒸気機關の發明者であり且つ又今日の世界産業の基礎を確立した英人ジェームス・ワットの誕生200年に當るので、我國でも此機會に於てワットの人格と偉業を追慕し併て青少年並に一般國民の科學及び工業知識の普及涵養に資するため、ワット誕生二百年記念會、社團法人日本動力協會、東京科學博物館の共同主催で東京に蒸気文化展覧會を開催し、特に英國から取寄せたワット關係資料を初め本邦蒸気文化發達資料や各學校生徒製作品等を蒐集し、4月25日から5月10日まで新築成れる萬世橋の鐵道博物館（第1會場）及び上野科學博物館（第2會場）に陳列し大衆の從覽に供した。

ワットの蒸気機關の出現は僅かに人畜の筋肉力を主要なる原動力としてゐた200年前の原始的な世界に新たなる機械力を與へ所謂18世紀産業革命の基礎となり近代文化發達の源泉となつた。ワットこそ實に世界人類の大恩人と云ふべきである。彼は1736年1月19日英國スコットランドの一小港グリーンノックに生れた。性質は内氣で體があまり丈夫でなく殊に幼時から頭痛持てその爲學校を度々休まねばならなかつた。彼は此頭痛の爲には殆んど一生悩まされたと云ふことであるがそれにも拘らず倦まず弛まず研究を續け遂に目的を達して世界の恩人となつたのである。スマイルズの自助論に「瓦德(ワット)は最も勉強勞苦せる人と稱すべし、その生平の行跡を觀るときは絶大の事を成し絶高の功を收むるものは天資の大氣力あり大才思ある人には非ずして絶大の勉強を以て極細の工夫を下し慣習經驗によりて技巧智識を長ずる人にあることを知る可きなり。瓦德より勝れて智見の廣き人は數多ありしかども勉強を居恒の習ひとして凡てその知るところのものを有用の實物

練習に運轉すること瓦德の如きものは一人もなかりけり、就中その心志尤も恒久忍耐にして眞證實驗を求むることを以て務とし又常に勤めて心思を用ふることを習ひ養へり」——西國立志編——とある如く彼は苦心經營發明を完成したのであつた。

クレオパトラの鼻が一寸低かつたら云々と或人は云ふけれども、ジェームス・ワットが蒸気機關を完成しなかつたならば、世界の歴史がどんな變りようなしてゐたか思ひ半に過るものがある。

第三回工學大會の參加會員數と晚餐會

第三回工學會大會は前號所報の如く四月四日より東京帝大に於て開催され、五、六兩日の講演會及び七、八兩日の見學を以て此大會は無事終了したが、今回の大會に参加したる十五學會別會員數は電氣部會（三學會聯合）の千七百名を最大とし、機械學會の千三百名、工業化學會の七百名、土木學會の五百四十名、日本鐵鋼協會の五百二十名、建築學會の四百十名、造船協會の二百六十名、日本鑛業會の二百二十名、火兵學會の百五十名、日本鑄物協會の百五十名、衛生工業協會の百名、日本冷凍協會の四十名等である。

四日夜、上野公園の精養軒に於ける晚餐會に出席したる會員數は日本鐵鋼協會々員の約五十三名を最大として、機械學會員の五十名、電氣部會員の四十八名、土木學會員の四十六名、工業化學會員の二十五名、建築學會員の二十名、造船協會員の十七名其他の順であつた。

土木學會は別に四月六日の夜、日比谷の三信ビル七階の東洋軒に於て會員の晚餐會を開いたが、出席會員百六十名に及び非常な盛會であつた。

今回の大會で知名の先輩が大分見えなくなつたが、特に古市博士、斯波博士等の巨人のいないのは淋しい。然しながら滿洲國道路局長の直木博士なども出席されて、認識の少い支那の技術問題などに就て我學界の注意を喚起されたり、其外にも遠隔の地から知名の技術家が多數に參會されて各熱のある意見を交換された事は土木界最近の豪華版であつた。此の調子で行くと皇紀二千六百年記念の萬國大博覽會と東京オリンピック等が萬一開催されないと、其年迄には土木學會々員數の一萬人達成は必ずしも空想ではない。